

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標

教育目標

校訓—「自主 互譲 責任」を理念として、生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。

教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざし地域に貢献する学校づくり、地域に信頼される魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。
- 2 多様な教育活動を通して、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公德心を培う。
- 3 温かさや厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。
- 4 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。
- 5 国や郷土の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を考えさせる。

めざす学校像

規律・学び・活気のある学校

- 基本的な生活習慣やマナーが確立した、規律ある学校
- 多様な学びを通して学習意欲を高め、基礎学力を伸ばす、学びの充実した学校
- チャレンジ精神を持ち、仲間と協力し頑張ることが楽しい、活気あふれる学校

重点目標

生徒が主体的に行動し挑戦することで一人一人の可能性を伸ばす教育活動の推進

- 1 生徒理解に基づく生活指導を通して、基本的な生活習慣や社会人として求められるマナーを確立するとともに、互いの立場を理解し尊重し助け合う温かい心と強い心の育成を図る。
- 2 小規模校の特性を生かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶ意欲と学力を高めるとともに、進路実現のための取組や資格取得の機会を強化する。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動・ボランティア活動などを通して、達成感・自己有用感を育み、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- 4 地域との連携を深め、まちづくり活動や地域の活動に参加することで、体験的・実践的に学び、自己実現とキャリア形成を促し、地域に貢献する高い志を持つ生徒を育成する。
- 5 連携型中高一貫教育校として、6年間を通して生徒を育成する連携・交流のあり方を研究・実践し、連携中学校とより一層の教育活動の充実を図る。
- 6 広報活動を積極的に展開して地域の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- 7 生徒の能力・適性、興味・関心や多様な進路希望に基づき、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。

学校自己評価

(評価) 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

番	領域	評価の観点	評価項目	令和3年度実践目標	平均	評価
1		開かれた学校づくり	中学校との連携事業	本校文化祭、連携中学校文化祭、合同芸術鑑賞会、クリーンアップ大作戦、授業研究会などのコロナ禍でもできる限りの教育活動をとおして、中高の連携を推進し、生徒の活躍の様子や本校の特色・魅力を連携中学校に伝えていく。	3.1	B
2			中学校との生徒会交流	生徒会役員がリーダーとなり、中学生と一緒に、道の駅の夕べ、八宿まつり、青葉荘訪問などの企画や運営を行う。また中学生に対して、オープンハイスクールなどの機会に学校紹介プレゼンを行う。	2.8	B
3			地域への貢献	本校生徒全員が1人1つ以上のボランティアに参加することを目標に、生まれ育った郷土を愛する心や、地域に貢献する姿勢を養う。	2.9	B
4			広報活動の充実	スクールニュースやHPを充実させ、保護者や地域の方々に本校の活動を理解してもらおうとともに、学校行事や授業への参加や見学をしてもらおうよう促す。	2.7	B
5	学校運営	生徒指導	生活習慣の確立	あいさつや掃除の徹底、遅刻の防止、服装、頭髪等の校則違反を防止し、規律のある学校をめざす。	2.5	B
6			小規模校ならではのきめ細かい指導	生徒との面談や日常的な観察をとおして生徒理解に努め、すべての教員が生徒の情報を共有することで、生徒理解に基づくきめ細かい指導を行う。	3.4	A
7			生徒指導体制の推進	校則違反、問題行動の防止のため、昇降口での登校指導と校内外の巡回指導を実施する。いじめの早期発見と未然防止のため、学校生活に関するアンケートと随時面談を実施する。生徒指導部と学年担任とで連携し、組織的に機敏な対応を行う。	3.4	A
8			学校行事の充実	体育大会、文化祭等の学校行事に、感染予防を徹底しながら、生徒が主体的に取り組む場面をつくり、積極性や協調性を育てる。	3.6	A
9			部活動の活性化	部活動に積極的に取り組む生徒の数を増やし、明るく活気あふれる学校をめざす。	3.1	B
10			進路指導	進路指導体制の充実	個に応じた指導を行うため、個々の学力把握、ポートフォリオを実施し、必要な進路情報を提供する。	3.2
11	進路意識の向上	体験的な進路ガイダンスを実施するとともに、地域社会と連携したボランティア体験等を通して、体験的に進路意識を醸成する。		3.1	B	
12	職業観・勤労観の育成	進路座談会、インターンシップ、社会人による授業等を通して、望ましい職業観、勤労観を育成する。キャリアノートを軸にして系統的に進路指導を行う。総合的な探究の時間を軸にして探究的な進路指導を行う。		3.3	A	
13	教職員の資質向上	授業改善	教科の枠を越えた課題に対して、全教員で研究授業に取り組むことにより授業の見直し、改善を行うための機会とする。	2.9	B	
14		計画性を持った研修の実施	教育相談、特別支援教育、進路指導等、学校の諸問題について校内研修を計画的に実施する。	3.3	A	
15	環境整備	落ち着いた学習環境の整備	清掃やごみの分別を確実に言い、公共心と責任感を育てる。ロッカーを利用するなどして教室の環境整備を徹底する。	2.7	B	
16	教育課程	自ら学び考える力の育成	自主的に学ぶ授業場面	主体的・対話的で深い学びを促進するため、積極性や協力がうまれるペアワークやグループワークの機会を作る。	2.9	B
17		基礎基本の定着	学習評価の工夫	学習活動の具体的な評価規準を提示し、生徒の学習意欲を高めるよう学習活動の評価を工夫する。	2.9	B
18			学び直しの工夫	学校設定科目パワーアップを軸に、授業や補習等の内容の工夫を行い学び直しの機会を充実させる。	3.3	A
19		個に応じた学習指導の徹底	指導方法、指導内容の工夫	指導方法や指導内容の工夫を行い、個に応じた授業づくりを行う。習熟度別授業や少人数指導によりきめ細やかな学習指導を実施する。	3.4	A
20			各類型特色化の推進	生徒個々の進路と興味に応じた類型による教育を推進する。各種資格試験の合格者を増やす。	3.0	B
21	課題教育	防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	防災避難訓練を実施し、職員・生徒を対象に危機管理意識を高め、安全教育を推進する。職員と生徒を対象としたAED心肺蘇生講習会を実施する。	3.2	B
22		人権教育	確かな人権意識の育成	職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚・認識の拡大を図る。人権HRを各学期に1回、計画的に行う。	2.9	B
23		特別支援教育	諸機関との連携	年間を通して外部関係機関（氷上特別支援学校・医療機関・公的機関など）やキャンパスカウンセラーとの連携により、専門的な助言や情報提供を得て、日々の学習指導や進路指導に活かす。	3.5	A
24			中高および学年間の引継	サポートファイル、中高連携シートの引継、中学校訪問、中高連絡会を通じ、中学からの一貫した支援・指導につなげると共に、必要に応じて『個別の教育支援計画』を作成し、個に応じた支援の方法を構築する。	3.5	A
25		社会人基礎力	心のサポートシステム研究開発	小中高連携、地域連携を推進し異年齢の考え方を理解し、自尊感情を高め、自己有用感を育て、社会人基礎力を育成する。	3.1	B

学校関係者評価

- ・生徒から、学習面では「個別に関わってくれるので良い。特にパワーアップの授業が良い。」と聞いている。また、生活面では、「いじめも見ない。楽しい。」と聞いている。
- ・学習状況調査結果から、学校の授業時間以外の勉強時間が少ないとなっているが、平日の課題を希望者だけでも出してもらえればもっと増えるのではないか。
- ・今年、4月1日から18才が成人となるが、成人になることについての説明や学習はしているか。
- ・色々な取り組みに感謝している。保護者アンケートでは、概ね肯定的な意見が多く、嬉しく思う。学校が楽しいと思うのは大変良いこと。
- ・大人が考えるより子供の発想は豊かである。生徒がさらに自発的に考えていけるようになって欲しい。
- ・先生同士の会話をたまたま耳にした。生徒の事を相談をした先生に対し、別の先生が「答えを教えるのではなく、生徒に答えを考えさせる指導を」と言っていた。それを聞いて西高はすごいと感心した。
- ・ジェンダーレスの取り組みについて。制服の組合せを自由にするのは良いことである。表面的な言葉だけではなく、心の中に浸透して欲しい。
- ・去年は生徒と接する機会が無く、寂しかったが、生徒がパワフルに活動をしている姿は見る事ができた。地域としてありがたい。ただ、地域で見かけるのは大体同じ生徒のように思う。
- ・自己肯定感は親の影響も大きいと思う。次の世代に目を向けて現生徒を育成することが大切だと考える。
- ・学校だけに色々求めるのは厳しいと思うが、保護者や地域に方向性を発信して欲しい。
- ・ライフル射撃部は、高校から始めても全国大会など目指せるし、話題性がある。部活動等で「丹波少年自然の家」などのフィールドを活用できないか。生徒が高校からでもチャレンジできる部や同好会を用意できないか。
- ・連携中学校アンケートの、西高の良いイメージの理由は、小規模校で一人一人に先生が声をかけてくれるアットホームなところ。ただ、氷上中からのイメージが悪くて驚いた。中学校に高校紹介に来てくれたが、小規模校・ライフル射撃部などのアピールが弱いと思った。野球やサッカーなどは経験者でないと試合に出られない場合が多いが、ライフル部は全員が高校になってから始めて県大会に出ている。小規模校の魅力をもっとアピールをするべき。
- ・まちづくり部や自主的なボランティアでは、自転車通学者以外の生徒が参加しにくい。レンタサイクルなど、移動手段を検討して欲しい。
- ・コロナ前には、バスで上級学校や企業の見学に行き、体験をして進路決定ができていた。今後は実体験を通しての進路決定は厳しいと思う。オンラインなどを活用して進路決定に繋がる経験ができるように考えて欲しい。
- ・学校生活に関するアンケートで、悩みを打ち明ける相手がない生徒がいる。親や友達に悩みを打ち明けにくいのもわかる。ひょうごっ子SNS悩み相談など、第三者の相談窓口の案内を願う。
- ・コロナ禍で高校生だけでなく親の生活も変わった。子どもへの影響が気になる。西高の保護者は大丈夫なのか。
- ・西高のイメージは青垣町内には伝わっている。氷上町に伝わっていないように感じる。
- ・ホームページの充実が課題と聞いた。来年から一人一台タブレットが始まる。ホームページの一部を生徒に作らせることはできないものか。
- ・ホームページよりもスマホやタブレットから情報を得る方が多い。様々なSNSを利用することを考えてみてはどうか。
- ・佐治スタジオでは生徒も活動ができた。その様子をSNSにアップしたいのだが、広報のルールを作ってもらえると、外部からも発信しやすい。
- ・学校だけにPRをするように言っている訳ではない。先生方に負担が掛からないように広報する方法を考えていけばよい。
- ・ヤングケアラーについて、大きな問題だと感じている。西高でも実態調査をしてみてもどうか。
- ・学校だけでやらず、地域にできることがあれば巻き込んで欲しい。
- ・資質向上や特別支援教育に取り組まれていることに敬意を評す。
- ・全員にコミュニケーションスキルやアンガーマネジメントなどを取り入れると、学校生活や社会に出てからも役に立つし、生徒の理解力が増えると先生の負担も減少するのではと思う。
- ・今年度は進路指導の先生に、一人ひとりの進路実現に向けて調査いただき、指導いただいたおかげで進路が決定した生徒がいると聴き感謝している。今後も担任だけでなくチームとして指導いただけることを願う。